

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		山地治山		路河川名等		—	
事業毎の通番		11		市町村名		長野市	
事業目的		長野市信更町吉原地区上流部の蟹沢には既設谷止工が8個設置されている。 経年変化により、溪岸浸食が進み、渓流内には不安定土砂が堆積して、施設の老朽化も進んでいる。 このため、谷止工の新設・補修を行い、保全対象の安全を図る。					
しあわせ信州創造プランにおける位置付け		4-1地域防災力の向上 (災害に強い森林づくり)		事業実施の根拠法令等		森林法	
関連する事業、計画等		防災・安全交付金事業(通常砂防)蟹沢：砂防堰堤等の設置 (土尻川砂防事務所)					
保全対象・範囲 受益対象・範囲		人家12戸、市道100m					
着手年度		平成27年度		事業期間		3年間	
完成年度(見込み)		平成29年度		事業費(千円)		6.33	
全体事業内容(主な工種)		谷止工2個 谷止工補修2個		費用対効果		3,200	
年度事業内容(主な工種)		谷止工1個		国庫		8,000	
事業効果		直接的効果 (定量的・定性的)		人家12戸、市道100mの保全			
		間接的効果 (定量的・定性的)		上部林道・農地及び農業用水施設の保全			
必要性		○人家戸数:		12戸		評価	
		○公共施設数:		1箇所 公民館		B	
		○災害時要援護者関連施設の有無:		なし			
		○保安林・林業用施設:		40% 一部指定あり			
重要性		○過去の災害履歴:		あり H22年豪雨		評価	
		○交通遮断による地域経済への影響:		中 市道		A	
		○地域防災計画上の位置付け:		長野市の防災マップに位置付けあり			
効率性		○費用便益比(B/C):		6.33		評価	
		○事業期間:		3年		A	
		○工法等の比較検討:		あり 新設・補修等検討			
		○流域の総合調整:		あり 土尻川砂防事務所と調整中			
緊急性		○流域の地形、地質:		第3紀層凝灰岩		評価	
		○平均渓床勾配(平均山腹勾配):		平均渓床勾配11°		A	
		○下流の堰堤等の整備状況:		あり 概ね満砂			
		○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域:		山地災害危険地区(崩壊土砂流出)201-70A			
計画熟度		○事業情報の共有:		土砂法説明会にあわせ事業計画について住民説明を実施			
		○地域の取り組み:		事業の実施について要望がある			
		○地域の合意形成:		事業内容について保安林指定と合わせて調整			
		○住民との協働:		農業用水として集水するため、草刈等実施され整備されている。			
部意見		渓床内の不安定土砂堆積と既存施設の老朽化により、豪雨時に下流保全対象へ被害をもたらす恐れがあることから、対策を行う必要がある。		行政改革課意見		評価結果 総合評価	
				渓岸浸食が進み不安定土砂が堆積している。今後の降雨等で不安定土砂の再移動が想定され、保全対象に被害をもたらす恐れがあることから、重要性、緊急性が認められる。		○ A	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

位置図

平面図

事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】

老朽化した治山施設(機能不全)→新設

渓岸浸食が進んでいる

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該地周辺は、H22.7月の局所的な集中豪雨により、多大な被害が発生している。当該渓流には過去に治山事業により8個の谷止工が設置されてきたが、経年変化による既存施設の老朽化が進んでいる。また、上流及び中流では渓岸浸食が進行しており、渓床内に不安定土砂も堆積している。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	当該地の水を農業用水として活用していることから、集水地周辺について草刈等している中で施設の老朽化対策について住民から要望が上がっており、県単事業での対策を検討していた。H26年6月の調査において、新たな渓岸浸食等がみられ、公共事業での対応が妥当となり事業要望することになった。
③事業説明等の経緯	現地調査に同行した地元住民及び長野市へ現況の計画内容について説明。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	下流及び周辺において土尻川砂防事務所の整備計画があり、工事内容及び施工区域等について調整している。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	
⑥地域活性化への影響と配慮	
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 33' 東経:E 138° 1'